

Kochi Normalization

ノーマライゼーション

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

Vol.37

2014.3



北高見町内会の要援護者支援を想定した避難訓練
と救急救護講習の様子



トラフ博士



たいさくくん



特集!

南海地震に 備える.....②~⑤

トピックス⑥

障害者福祉センターだより⑦

リレーエッセイ⑧

インフォメーション



じしんまん



つなみまん

南海地震に備える

今後30年以内に、南海地震が発生する確率は70%程度と言われています。

南海地震が発生した場合の被害は東日本大震災を上回る事が想定されています。未曾有の被害をもたらした東日本大震災を教訓に、現在、高知市の行政や地域での取り組みを紹介するとともに、地震への備えとして、私たち一人ひとりが考えておかなければならないことについて取材しました。

南海地震は、土佐湾沖にある南海トラフを震源とする地震のことで、百年から百五十年を周期として発生し、東南海地震や東海地震と同時に発生する可能性があるとも言われています。最大クラスの地震・津波が発生した場合の被害は、高知県全体で死者数約4万2000人、全壊・焼失建物棟数15万3000棟（平成25年5月高知県公表）と想定されています。

高知市では、春野や種崎、三里地区などの太平洋沿岸の地区で津波避難タワーの建設や避難路の整備を実施するとともに、緊急避難場所として、津波避難ビルの指定を行い、地震・津波の避難対策を進めています。これと並行して、災害時の住民同士の助け合いを進めていくために、地域の自主防災組織の結成促進や活動活性化に向けて支援を行っています。（平成26年3月現在、市の自主防災組織の結成率83.7%）

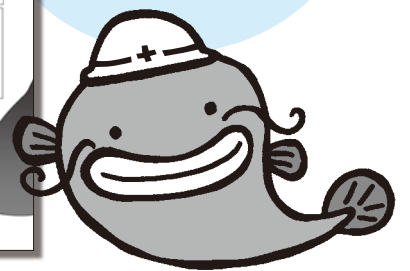
高知市地域防災推進課では、職員や防災対策人の派遣、活動のための経費に関する支援、地域が防災フェアなどを行う際の起震車や煙体験を行うための訓練用機材や啓発用DVDの貸し出し等を行っています。小学校区を単位とする、自主防災組織の連合組織結成の支援もしています。

高知市障がい福祉課では、「災害時要援護者支援地域活動モデル事業」を行っています。地震等の災害が起こった場合に、障害者、高齢者等迅速な避難が難しい人たちが災害時要援護者として、地域の自主防災組織等と協力して実態を把握し、災害時の適切な支援を行うための取り組みです。平成18年度から浦戸・種崎地区、平成22年度からは潮江の北高見地区で行っています。



津波浸水予測時間図

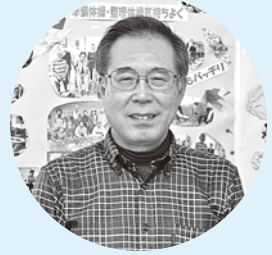
この図は足を取られて動けなくなる高さの津波（浸水深30cm）がやってくる時間を示しています。



地域での自主防災組織の動きや要援護者把握の取り組みの実際を知るため、潮江地域で平成22年度からモデル事業に参加している北高見町内会を訪ねました。



北高見町内会の取り組み



北高見町内会長
濱渦 修一さん

① 北高見町の自主防災組織の活動の始まりはいつですか。

平成20年度に高知市の補助金で防災倉庫を構え、備蓄や資器材の充実を行いました。翌平成21年度に、自主防災組織の規約を策定して本格的にスタートしました。

② これまでどのような活動をされてきましたか。

防災に関する座学から始めました。その後の主な事業としては、バスを借り上げ北淡震災記念公園へ行き、語り部にお話を聞いたり、北高見町内会として、潮江地区で行われる防災フェアにも参加してきました。

防災訓練を実施して、主要な防災機材の使い方や消火訓練を行いました。防災アンケートも取って住民の防災に対する意識調査を行いました。また、災害時の救急



避難訓練の様子

救護についての講習を、当地区在住の医師を講師に招いて行ったこともあります。

地域住民とともに、避難路や避難場所の検討を行い、その整備を高知市からの補助金と町内会費で行いました。今では、この地区の正式な避難路や避難場所になっています。また、防災倉庫も同様の方法で充実させました。

「災害時要援護者支援地域活動モデル事業」についても、平成22年度から取り組んでいます。要援護者把握のためのアンケート調査、聞き取り調査、訪問活動、要援護者への個別支援について検討を行い、個別支援計画を作成してご本人にもお渡ししました。要援護者が居住しているエリア毎に、声掛け隊を結成して支援にあたる態勢ができています。

潮江地区で行われる高知市の防災フェアや潮江小学校区で行われる運動会や夏まつりへの参加を積極的に行っています。また、月一回発行の会報「北高見町内会だより」に活動報告を載せ、町内に全戸配布を行って広報しています。

③ 活動をしていくうえで、大切にしていることは何かありますか。

毎月会報を出して、町内会費の納入の有無に関係なく全戸配布して町内に広報をしていることです。やはりとにかく知ってもらうことが、こういった活動に参加していただく人を増やすことにもなりますので、大切なことと捉えています。いきいき百歳体操を北高見町公民館で行っていますが、参加者が町内会活動や要援護者支援のモデル事業についても協力してくれま



消火器訓練

シヨンを大事にしていくことが大切ですね。

潮江地区は、伝統のあるお祭りが少ないです。地区で行われる運動会や防災フェア等のイベントのチラシについては、主催者からり回ってくる数が限られているため、増刷して全戸配布して参加を呼びかけています。「地域のコミュニティが大切」とよく耳にしますが、大切にしていくためには、そういった地区内でのコミュニケーションをとる場を失くしてはいけません。各地区が何かを始めようとしても他団体・機関と連携せずに、町内会や自主防災組織だけで行うことは難しいです。いざという時に助け合うためにも地区内で、日頃からコミュニケーションをとっていく必要があります。

④ これからの課題はなんでしょう。

要援護者把握の活動を進めていく中で、知的障害のあるお子さんを持つ親御さんから、真剣にどういった避難をしたらよい

のかという相談を初めて受けました。活動の意義を強く感じました。また、障害はなくても、生活事情により心身ともに余裕がなく、訪問をしても受け入れが困難で自主防災組織に参加していただけない方もいます。

私たちは、町内の全世帯参加を目標として取り組んでいます。個人情報保護のため行政からは情報を得ることができませんので、自分達で把握していかなければなりません。困難なケースへの対応は、常日頃から地区の民生委員と連携しながら検討しているところです。

以上が、北高見町内会の活動です。北高見町では、通常の避難訓練だけでなく要援護者の個別支援計画作成まで行っていました。それは、次ページで災害時に要援護者となる障害のある人の声を聴いてみましょう。



非常食の炊き出し



防災テント設営訓練



高知県聴覚障害者協会 にインタビュー



協会事務局の皆さん

①聴覚障害者は、見た目には分かりにくい部分があります。何か、見分けるためのポイントはありますか。

後ろから声をかけても振り向かないとか、話しかけても反応がない人がいたら、聞こえないのではないかと気がついてほしいます。

②災害時、聴覚障害の人にはどのようなことが必要になるでしょうか。

目で見て分かる情報発信の仕方を考えていただけるとありがたいです。阪神淡路大震災の時、避難所で炊き出しのお知らせを放送のみでやっていたため、聴覚障害の人が、数日間食事ができなかったという事態があったそうです。

災害時だけでなく、普段からの近所づきあいも大切なことです。地域の方との関わりがあれば声をかけてもらえますが、関わりが持てない聴覚障害者はたくさんいます。なぜならば私たちのコミュニケーション手段は音声ではない手話等です。手話できちんと対応できるのは設置通訳者のい

る、当協会、高知県聴覚障害者情報センターや高知市役所、非常に限られています。

③地域の防災訓練に参加したことがありますか。

市外になりますが、土佐市の宇佐地域は、地震や津波に対する危機意識が強いため、聞こえない人も地域の訓練に参加しています。市内では以前、神田地区の自主防災組織から聴覚障害者協会に呼びかけていただき会員17名が参加した防災訓練のみです。(ノーマライゼーション35号掲載) 障害に関係なく地域との関わりがないと、コミュニケーションは難しいです。

④高知県聴覚障害者協会として、南海地震に備えて何か取り組みをされていますか。

今年一月に、関係六団体と聴覚障害者の防災力を高める目的で、高知県聴覚障害者災害救援地域本部を立ち上げました。耳の聞こえない人は、見た目には分からないことで誤解を受けることも多々あります。社会に聴覚障害についての理解がより深まっていくよう、研修会等での啓発活動にも力を入れていきます。その取り組みの一環として「We Love コミュニケーション」というシリコンバンドを作りました。これは、聴覚障害者であることや、手話や聞こえない人に対する理解を持つているという意思表示になります。



地域に住む視覚障害者にもインタビュー



岡村 喜八郎さん
(神田地区在住)



つなみまん

②周囲の人たちには、どついった形で自分のことを発信されていますか。

自分に視覚障害があることについては、町内会の会合等に出て話をしました。それに、普段から近所の人たちと挨拶や世間話ができるような付き合いはしていますので、自宅の周辺では大丈夫ではないかと思っています。

③地震が起こった時、どついったことが不安ですか。

家同士が接近している場所に自宅がありますので、火災が起こった時を心配しています。延焼は仕方ないですが、自宅からの出火は防ぎたいため、何か手立てはないかと考えています。

自宅周辺では大丈夫ですが、外出先で被災した場合が不安ですね。方向感覚を失えば自分がどこにいるか分からなくなりそうです。その場にいる人達に助けていただかなくてはなりません。例えば高知市社会福祉協議会で毎年実施している「ふれあい体験学習」等で啓発しているように、困っているときに助けてくれるような優しい雰囲気のある社会を作っていってほしいです。

①日頃から南海地震に備えていることがありますか。

三年ほど前に、家の耐震工事やタンス等の家具が倒れてこないように転倒防止のための処置をしています。非常食やミネラルウォーター等の購入はしていませんが、自宅から少し離れた場所にある飲むことが可能な湧水の場所をいくつも把握しています。地区の避難場所も把握しています。揺れが来た場合についても、どうやって避難するかは考えています。地区で年一度行われる防災訓練にも参加して消火器の使い方などは学んでいます。



たいさくくん



高知市身体障害者連合会

会長 中屋 圭二さん

(高知市社会福祉協議会 理事)



防災に取り組むには 日頃からの住民同士の つながりが大事

自主防災組織の結成や活動に対する意識の高さは地域によってさまざまです。30〜50歳代の住民が昼間仕事に出ていることもあって地域活動に疎遠になっていることや、女性の視点をより取り入れた活動にしていかななくてはならない等、どの地域にも程度の差はありますがさまざまな課題があります。災害時要援護者の把握にしても、支援を必要としている人の受け入れへの理解がなければ進めていくのは困難になります。

南海地震への備えは行政の事業も大切なことですが、まず、地域に住む人同士の日常的なつながりが重要になってきます。それがなければ、非常時のみお互いに助け合うということは難しいのではないのでしょうか。より被害を少なくしていくためには、障害のある人やその家族及び支援者は、災害時にどういった助けが必要なのかを日常的に周囲に発信していく必要があります。周囲の人はそれをしっかりと適切に理解し、お互いに共通認識を持つておく必要があります。

① 地域でお互いに助け合うという文化を、まず世代のつながりが必要でしょうか。

地域で活動している人を見ていて思うのは、障害について全てを分かっておかなければならないという気持ちがあることです。実際は、向こう三軒両隣にどんな人がいるのかが把握できていれば問題ありません。障害の特性によって対応が異なるので、自分の地域に住んでいる人の障害についての把握で十分です。

障害のある人と地域の人が、お互いに口ごもるからコミュニケーションが取れていけば、障害者側が特別の発信をしなくてもどのような人が住んでいるのかが把握できます。普段の関わりがないのに、災害の時だけ助けてというのは難しいです。普段から関わりを持っていけば、障害者側は意思表示できますし、周囲の人たちも自然と自分たちの避難以外に何をすればいいかが分かってくると思います。

要援護者である障害者も高齢者も、住んでいる地域の構成員であるという自覚を持つことも大切なことですね。

② 地域でよりよい防災訓練をするにはどうすればよいでしょうか。

高知市内には、大街が27地区あります。この大街を単位とした防災訓練を開催する場合は、行政は地域住民に訓練への参加について、積極的に市の広報誌等を通じて呼びかけてほしいです。要援護者側でも、訓練だからと言って参加しない場合やご本人に対して周囲の優しさから体調を心配して参加を勧めない場合等がありますが、日頃の訓練こそが一番大切なことなのでぜひ積極的に参加してほしいです。

一般の人が訓練している中に障害者が出て行くのは、地域の中でのコミュニケーションが取れていないと大変勇気のいることです。ですから、地域の人たちにお願いますとすれば、障害者に、あなた達のためにもやるのだからと誘っていただけると参加しやすいです。

③ 要援護者の支援についてはいかがでしょうか。

障害者関連のイベントの参加者が増え、障害のある人に慣れ、関わっていく人が増えていくことが理想です。支援だからといって身構えずに、子どもを見守る大人の気持で地域の人たちに見守っていただけると嬉しい。それぞれの人の特性を見極めて適切に支援できるようにするのはかなりの回数を重ねないと難しいとは思いますが。

やはり、日頃からのつながりを大切にしたいですね。



トピックス topics

「高知市生活支援相談センター」 — 高知市社会福祉協議会が高知市と一体となって始動 —

高知市社会福祉協議会
地域福祉課 自立支援グループ長
高知市生活支援相談センター 副センター長

中島 由美



こんにちは
中島です



生活困窮から脱却し暮らしの安心を確保するため、日常生活に困り事のある方の相談窓口として、平成25年11月、高知市本町4丁目にあるニッセイ高知ビル3階に開設した「高知市生活支援相談センター」取材しました。

① この事業はどのような背景で始まり ましたか。

国は、生活困窮者の自立を促進する観点から、*1住宅支援給付事業や地方自治体とハローワークが一体となって就労支援等の措置を講じてきました。しかしながら、生活困窮の原因は複数しており、総合的な支援が必要なため、これらの事業だけでは十分ではありませんでした。

その後、平成24年4月、社会保障審議会に「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」を設置し、1年をかけて議論を進め、平成25年1月の報告書の提言をもとに、生活困窮者の

就労・自立支援のための新法「生活困窮者自立支援法」を平成25年12月に制定しました。平成27年4月1日からは、福祉事務所を設置する全国の自治体はすべて、この事業に取り組むことが決まりました。

この特別部会の委員である岡崎高知市長からの「生活困窮者の自立支援は、社協がその中心的な役割を担っていくべき。」との意見もあり、国のモデル事業として高知市では、市と高知市社会福祉協議会（以下、市社協）が一体となって取り組んでいくことに決定しました。

② この事業のメリットやこの4か月間 で見てきたことを教えてください。

当センター開設以前は、相談者が生活上の課題を解決するためには、その内容ごとに各窓口まで足を運ぶ必要がありました。センターでは、受け付けた相談者の課題を市社協や他の関係機関と連携を取りながら解決していきま

というメリットがあります。

相談に対応する中で、これまで市社協と関わりのなかった団体とつながりができました。例えば、今日の食べるものにも不自由している方に対する食糧の提供などの協力をいただいている*2フードバンク、住居を借りる際に必要な保証人になってくれるNPO法人、無料・低額診療のある医療機関などです。

市の福祉課や関係各課とは、以前にも増して連携がとれ、支援のスピード感が増しております。

③ 今後の目標、展開についてお聞かせ ください。

まず、相談者の話をしっかりと聞き取り、問題を整理し一つずつ解決していく。例えば、就労のための情報を提供したり、家庭内の生活環境を相談者自身が改善する意識付けを行い、自立していくことを支援するのがセンターの本来の目的です。

開設間もない現在は、他機関へつなげて解決した、ケースが多いのが課題です。

目標は、自立をどう支援していくか。生活保護を受けたとしても自立のための就労訓練につなげていくなど、いかに支援していくかが私たちの役割です。そのためには、次の展開（ステップ）として、商工労働関係の機関・団体、他の社会福祉法人、福祉施設との連携も、このモデル事業期間1年間のうちに築いていくことが求められています。

注釈※1 住宅支援給付事業

平成21年10月、住宅手当緊急特別措置事業の名称で開始。

離職により住まいを失った方等が住まいを確保し、安心して就職活動ができるよう、家賃に充てるための費用を支給。

●対象者：離職後、2年以内の者及び65歳未満であつて、住居がない又は住居を失つた者のある方

●支給要件：毎月2回以上、公共職業安定所の職業相談を受けること

注釈※2 フードバンク

もったいないという精神のもとに、企業や店舗から品質に問題がないのにも関わらず、廃棄される食品を受け取り、生活困難で食へ物を必要としている方や福祉施設などに無償で提供する活動。

高知市生活支援相談センター

業務時間：月曜日～金曜日 8:30～17:15
（※土日祝、年末年始12/29～1/3は休み）
TEL：088-856-5529
FAX：088-856-5549
Eメール：sienn-kochi@piano.ocn.ne.jp
〒780-0870 高知市本町4丁目2番40号

ニッセイ高知ビル3Fでは、次の業務も行っています。

- ◆高知市社会福祉協議会 地域福祉課
 - 成年後見に関すること
 - 日常生活自立支援事業に関すること
 - 生活福祉資金貸付事業に関すること
 - 障害者相談支援事業に関すること
 - 地域福祉コーディネーターによる地域づくりの推進 等

●主な相談内容（重複あり）

- 収入・生活費のこと
- 家庭関係・人間関係
- 仕事探し、就職について
- 病気や健康、障害のこと
- 日々の生活のこと
- 住まいについて
- 家賃やローンの支払のこと
- 債務について
- 子育て・介護のこと
- DV・虐待
- ひきこもり・不登校
- 仕事上の不安やトラブル
- 地域との関係・社会参加

障害者福祉センターだより



陶芸教室作品展

平成25年9月21日(土)・22日(日)の2日間、「障害者福祉センター 陶芸教室作品展」を開催しました。作品は障害者福祉センターの陶芸教室参加者の他、他の福祉施設の陶芸教室参加者等からの出品もあり、200点以上の力作が並びました。あわせて開催した市民対象の陶芸体験では「このような体験ができて嬉しい。」と参加者の笑顔も見られました。初日はNHKの取材を受け、当日の夕方のニュースで報道されました。



文化教室

平成26年1月18日(土)に堀内佳さんを講師に迎え、「自己表現力向上講座～歌おう語ろう…堀内佳さんとともに～」を開催しました。

講座では、講師の幼少の頃の話や曲誕生のエピソード、オリジナル曲に、感極まり涙する参加者も見られました。当日は57名の参加があり、大盛況のうちに終了しました。



文化教室

障害者福祉センターと南部障害者福祉センターでは、文化教室を開催しています。参加希望の方は、障害者福祉センターまでご連絡ください。

年間開催の定期教室は、右記の表の通りで随時入講できます。また、不定期に単発の教室をしています。講座内容・日程は高知市広報誌「あかるいまち」の他、高知市社会福祉協議会のホームページ

(URL <http://www.kochi.csw.or.jp/>)

にアップしますので、ぜひチェックを！お問い合わせをお待ちしています。



調理講習会

平成25年12月15日(日)に「ラベンダー・ハーブとアロマセラピーの学校」代表の瀬尾真生さんを講師に迎え、昨年度も好評の「自立支援講座 調理講習会～Xmasハーブ料理教室～」を開催しました。

講座では、チキンと冬野菜のホワイトシチュー、いろいろサンドイッチなどを作り、参加者全員での楽しくおいしい食事会となりました。



ボランティア講座

平成26年1月30日(木)に学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジの協力で、市内在住の障害者に生徒達の技術を生かした爪磨きとハンドリラクゼーションのボランティア体験を行いました。

生徒も参加者も初めは少し緊張気味でしたが、次第に打ち解けていき、笑顔で会話する様子も見られ、和やかな体験となりました。生徒からは、「貴重な体験ができ、社会に出て役立てることができると思いました。楽しいお話ができて、これからもボランティアに挑戦してみたいと思いました。」との声も。当日は読売新聞の取材を受け、後日新聞で報道されました。



●南部障害者福祉センター

教室	講師	開催日	時間
書道	岡崎 暢子	第1・3月曜日	13:30～15:30
陶芸	長岡さつき	第1・2火曜日	13:30～15:30

開催場所 / 高知市百石町3丁目1-30 電話 088-878-9070 FAX 088-878-9071

●障害者福祉センター

教室	講師	開催日	時間
書道	岡崎 暢子	第1水曜日	13:30～15:30
さをり織り	土居 安代	第1土曜日	13:30～15:30
紙粘土	和田 満代	第4月曜日	10:00～12:00 13:30～15:30
陶芸	生田 竜山	第2金曜日 第4木曜日	10:00～12:00 13:30～15:30

開催場所 / 高知市旭町2丁目21-6 電話 088-873-7717 FAX 088-873-6420

興味のある方はお気軽にご連絡ください。見学もできます。

- ◆募集人員：各教室 10名(人員に空きがあれば、随時参加できます。)
- ◆対象者：高知市在住、障害のある方。
- ◆受講料：無料。但し材料費は実費負担があります。

Relay Essay

リレーエッセイ

お安く安心を買いました。

旭町2丁目町内会

会長(なりたての防災士)

菅井 清次



ゆうどうくん

あの悲惨な大震災から3年が過ぎました。あつという間の3年です。あの時の日本中の騒然としたざわめき、明日は我が身との危機感。忘れていませんか？私は随分遠い記憶となりました。

私の実家は宮城県多賀城市にあります。津波が届かなかつたおかげで建物は被害を免れましたが、地震による家具の倒壊、電気・上下水道の不通による被害が大変なものでした。母の一人暮らしを心配しましたが、2週間後に現地入りか叶い、無事を確認できました。向こう3件両隣、ご近所の皆さんのおかげで怪我もなく元気に生き延びておりました。

当日、幸いなことに母は縁側で日向ぼっこをしていました。何もなし空間にいたため助かりましたが、家具の倒壊を目の当たりにして身動きができず、床にへたりこんだまままたたそびます。

結局、急に襲われたら何もできない、というのを自覚したうえで生活するのが正解ではないかとその時感じた次第です。では、やらねばならぬか？いえいえ、そうではなく、何もしなくともよいように今からやっつけてしまおう、という事です。私

が実家で行った対策を紹介しましょう。タンスを倒れないようにしてきました。1本150円位の木材を買ってきて壁とタンスに直接ビスで止めました。台所の入口引き戸のガラスを障子紙に替えました。テレビを荷造りヒモでくくりつけました。電子レンジも壁にくくりつけました。その他ありあわせの物で動かない、倒れないように止めてきました。防災用の資材は一切使わずパッチリ、ガッチリ。

私がまだ現地に滞在中にM6強の最大余震があり、恐怖の揺れを体験しました。その際に確認できたのです

が、一切倒れるものはありませんでした。それ以来母には「大丈夫、ここには倒れるものは何も無い。揺れるだけだから安心して。」と言っています。工夫次第で安く安心が買える事例と言えます。

健常者・障がい者関係なく日頃の準備や対策が安心生活につながることを理解して頂きたいと思います。

もう一つ、工夫したことがあります。それは、鴨居のところに市販のS字フックを3個並べて引っ掛けました。地震が来ると小さな揺れでも「チリンチリン」となります。風鈴の様な効果です。小さな揺れのうちに身構えることができるようになります。

できることから、お金をかけずに、有り合わせで。工夫次第で安心生活が待っています。いかがですか？エコ防災。



ヘルバちゃん

お知らせ Information インフォメーション

障害者福祉センターの講座やイベントは、高知市社会福祉協議会のホームページに随時掲載していきます。ぜひご覧ください。

高知市社会福祉協議会
URL <http://www.kochi-csw.or.jp/>

みなさん、ぜひクリックを！
障害者福祉センターのアドレスは以下のとおりです。

asahi@kochi-csw.or.jp です。
ぜひご利用ください。

編集後記

みなさん、南海地震への備えは万全ですか。私自身、胸を張って万全とは言いませんでした。取材を通して、日頃からの備えや地域とのつながりが、いのちを守ることにすると学びました。一人でも多くの方に危機感を持っていただき、まずは町内会の避難訓練への参加等、身近なことから始めてみませんか。(K.M)

